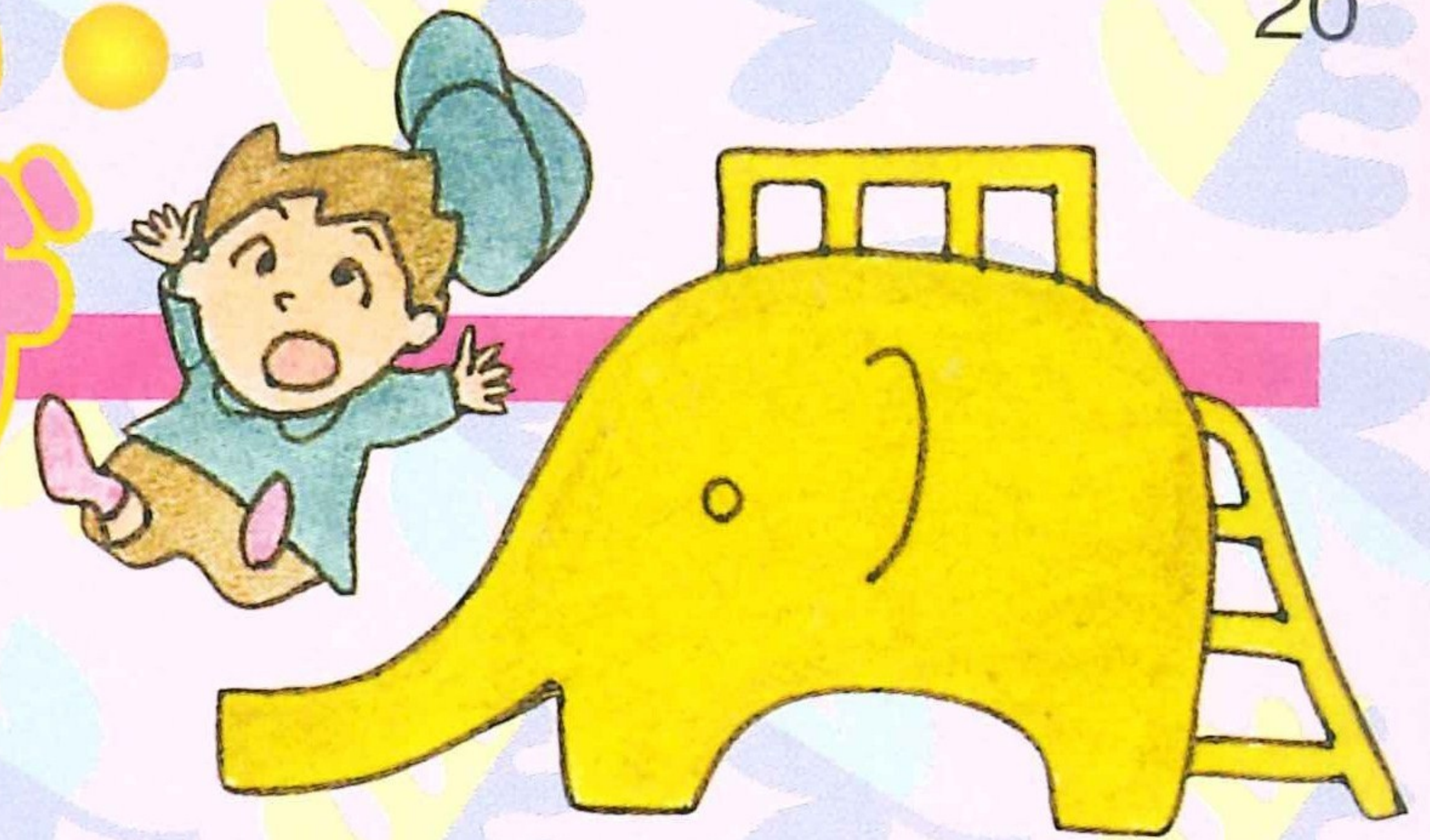


8 不活化ワクチン

インフルエンザ



インフルエンザってどんな病気？

インフルエンザウイルスの感染により、高熱、鼻汁、咳、全身倦怠感などの症状が出ます。Aソ連型、A香港型、B型のウイルスは毎年少しずつ変異し、流行を引き起こします。

今年は季節性インフルエンザのほかにA(H1N1)型ですが、多くの人が免疫を持っていないインフルエンザウイルス(新型インフルエンザと称している)の流行が起こっています。いまこのウイルスを使った新型インフル

エンザワクチンが製造されています。ワクチン製造量に限りがあるためかかりやすいと思われる人を中心に接種する準備が進んでいます。接種については、かかりつけ医とよく相談してください。

接種を受ける時期と間隔は？

●対象者年齢

接種は生後6カ月から可能ですが、お子さんに接種するかどうかは、かかりつけの医師とご相談ください。なお、呼吸器系、心臓血管系などの持病がある人や医療従事者等の方には特に接種をお勧めします。

●回数

13歳未満の人は原則として1～4週間の間隔をおいて2回の皮下注射をします。より強い免疫を得るためには4週間あけるといいでしょう。流行期前の10～12月に接種することが望ましいとされています。

インフルエンザワクチンの副反応は？

- 接種部位が赤く腫れる程度で、発熱、頭痛など副反応はほとんどありません。
- インフルエンザワクチンには卵の成分が少量含まれています。検査で陽性でも

生卵を食べて異常のない方は接種を受けることが可能ですが、かかりつけの医師にもご相談ください。

●接種日メモ

インフルエンザワクチン
接種1回目

月 日

他の接種とは
1週間(6日間)以上
あける

1～4週間

インフルエンザワクチン
接種2回目

月 日

(13歳未満のみ)

他の予防接種
可能日

月 日以降

他の接種とは
1週間(6日間)以上
あける

他の予防接種
可能日

月 日以降

(注)

65歳以上の高齢者、60～65歳未満の心臓・肺・腎障害を持つ人は定期接種の対象となります。